

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程において、工業教育の特色を生かし、社会で必要とされる専門性の向上を図る教育課程を提供する。 ・自ら課題を発見し解決する力の育成と主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 ・学校行事や生徒会活動を通じ、自他の多様性を尊重させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎基本の習得や、学習習慣の定着を目指し、組織的な授業改善の取組を強化する ①検定合格等の成功体験を積ませることで、自ら考え行動する意欲を向上させる。 ②生徒会行事の運営を通して、生徒の自立心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の興味・関心を引き出す授業展開やICTを用いた授業などを積極的に展開する方法や手法を検討し、共有する。 ①合格率の低い検定については補講等の指導体制を構築し、様々な機会を通してインターンシップへの参加率を促す。 ②コロナ禍における学校行事の在り方について、生徒たちに考えさせ、企画・準備を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「生徒による授業評価」から、生徒が意欲的に学習していることが確認できたか。 ①検定合格率、インターンシップ参加率が昨年度より向上したか。 ②コロナによる制限を受けた中で、安全に生徒会行事等が実施でき、生徒たちに成功体験を積ませることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による後期授業評価の集計結果では1年と2年生の一部で前期評価より低下したが80%以上の生徒から肯定的な回答を得た。 ①検定合格率については指導体制の見直しにより合格率の向上が図れた。インターンシップについてはコロナ禍により多くの事業所で中止となり、実施数が少なかった。 ②コロナ禍の中で、安全に学校行事の在り方を、生徒会との打合せを何度も重ね、未実施の行事(文化祭、体育祭は実施)を最小限に抑えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価が低下した原因を検証するとともに、今後もICTと既存技術を融合させた授業展開を進めていく。 ①改善が出来ていない検定についても指導体制を構築する。コロナ禍でも安全にインターンシップが行える指導環境を企業と検討する。 ②今後の学校行事についても、コロナ禍の中で安全に行うということを前提に、しっかり計画させ実現させるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習できるか否かは大きな問題。検証し、課題を明らかにして評価100%を目指してください。 ・授業におけるICT活用の難しさがあると思う。動画、音声、文書の3つをどう組み合わせるか。製作者の得意不得意によって使い方は変わってよいと思う。 ・生徒自身が行事を企画・参加することにより成功体験を積むことは大事であると思うので、益々の支援を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の授業評価から肯定的な回答が多いが、一部の生徒はつまづいている部分があることが確認できた。来年度からICTを始めとした新しい試みを考え進める必要がある。 ②コロナ禍が落ち着かない中、感染症対策をしっかりと行いながら、学校生活全般で生徒の主体的な取組みを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度から始まる新1年生の新カリキュラムの実施を効率よく進めるため、また、2、3年生の学びの深化を図るため、一層の授業改善を進めるようICT活用の具体的な方法や研修を、新設する「情報管理プロジェクトチーム」と教務Gが連携して実施する。 ②学校行事等だけでなく、日々の生活の中から自主的な行動ができるよう指導していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の成長を意識させ、社会人としての基礎力を身に付けさせる。 ・学校行事や部活動を通じて、責任感、協調性、自主性の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、教育相談体制を強化し、情報共有の充実に努めながら、問題行動の未然防止と迅速な問題解決を図る。 ②生徒の主体的な活動への支援を通して、自立心・責任感を育成し、部活動等の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①困難を抱える生徒に対し、個別の指導が行えるようSCやSSWと連携して組織的に対応できたか。解決・好転したケースが見られたか。 ①部活動いじめアンケートの実施を検討する。 ②万全なコロナ感染防止対策をとりながら活動できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談やケース会議等が、SCやSSWと連携して組織的に対応できたか。解決・好転したケースが見られたか。 ①部活動いじめアンケートを実施できたか。 ②活動が制限される中で、部活動加入率は向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒から相談しやすい環境を作りながら、各機関と連携して教育相談とケース会議を効果的、組織的に開催できた。 ①緊急事態宣言を受け、分散登校や部活動の制限があったため、生徒間のトラブルも生じていない状況がある。通常のいじめアンケートは2回実施し、部活動いじめアンケートは3月に実施する。 ②県の指示に基づきコロナ感染症対策をとりながら活動するように、現在継続中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談やケース会議等が、SCやSSWと連携して組織的に対応できている。各相談が現在進行中のため、解決・好転するように努める。 ①次年度どのタイミングでアンケートを実施するか検討が必要である ②活動制限がある中、部活動加入率の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で対応困難なケースもあるかと思うが、引き続きの取組を期待する。 ・相談しやすい環境作りと会議の効率開催で、問題解決はどの程度達成されたか知りたい。 ・組織的な支援体制を構築することが信頼関係を生んでいると捉える。 ・SC・SSWと連携できているのは良い。各機関との連携・ケース会議もかなり気を遣う作業と推察する。お疲れ様です。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣については、遅刻指導・服装頭髪指導とも例年通り実施したが、指導件数に変化は見られない。 ①教育相談については、2件のケース会議において、おおよそ狙い通りの指導体制を組むことができた。 ①年度末に部活動いじめアンケートを実施したが、実施時期の検討が必要である。 ①SCやSSWと連携した指導により、指導案件となる前に対応できるようになった。今後はSNS等における効果的な指導方法等について検討を重ねたい。 ②部活動においては、コロナ対策をしっかりとした中、自主的な取組みと共に、活性化についても検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻指導、服装・頭髪指導は今後も地道に年間通して行っていく必要がある。 ①支援が必要な生徒はかなりいると思われる。対面だけでなくオンラインでの相談を含め、検討する。 ①1～3年生がそろって活動している状況下で、部活動のいじめがないかアンケート調査を実施する。 ①SCおよびSSWについては、次年度も拠点校として指定されたので、心の問題等を中心に有効活用を図りたい。 ②部活動の活性化については、アルバイト等の問題を含んでいくが、進路指導と絡めながら部員数の増加を目指す。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の充実を図る。 ・社会的・職業的自立に資するよう、労働観、職業観を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染予防に十分に配慮しつつ、生徒及び教職員向け企業説明会及び進学説明会を随時開催し、進路指導の深化を図る。 ・普段から、職業人としての資質形成指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後または、週休日を利用し、企業の会社見学会や、大学専門学校等の入試説明会に積極的に参加し、進路指導において、生徒に還元する。 ・生徒の進路室利用時や、普段の授業等を利用し、随時行う。 	生徒が自ら動き、早い時期より比較検討しながら、自分の適性に見合った、より深い進路選択ができたか。	進路室を訪問される企業の情報を随時、3年生ホームルームに掲示し、また、具体的な求人内容をアナウンスするなどして1学期早々の時期より進路実現に向けた指導ができた。大学進学者にミスマッチを生んでいるケースがある。	夏休みにコロナ感染者が急増した影響を受けて、休み中の面接指導が行き届かず、少なからず採用に影響が出た。 1学期より徹底的に、繰り返しの指導が求められた。 大学進学者のミスマッチ解消の手立てを講じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での進路指導が難しい中で先生方は懸命に努力されたと思うが、先生方の努力と生徒自身の意欲に乖離がなかったか。 ・ミスマッチの要因を分析する必要がある。 ・活動が制限され、生徒の生き生きとした状態を目の当たりにする機会が減ったことも、ミスマッチの一つの原因か。手立てを講じるとされていることに頭が下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職全般については、1学期早々から来校企業の情報を随時、掲示、または授業等でアナウンスし、それは希望者の選択肢、視野の拡大、意識の高揚にも繋がり、就活を支えた。 ・求人入力について、入力に要する時間が、生徒の閲覧時間の短縮につながってしまい、入力の簡素化が課題である。 ・進学については、大学進学者の中途退学の増加が課題であり、進学者と大学の実力の相違が起因しており、ミスマッチを招かぬよう新たな対策が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職の求人入力については、これまで求人票の一部を入力し、その一覧をクラス掲示していたが、入力に膨大な時間を要し、対人指導ができないでいた。この点を見直し、改善の手法として、求人入力を代行する業者と連携することで、来年度からは、求人票開示が随時行われ、これまでより、緻密な、より吟味された進路選択ができるように変えていく。大学進学者の選択ミスマッチに関しては、本人の実力把握及び実力養成のため、外部機関の力を借り、模擬試験、論文添削指導を取り入れていく。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともに育つ向工」を実現し、「地域で活躍する向工生」を育むために、地域社会との連携による教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「地域とともに育つ向工」を実現するため、本校のホームページ、説明会などで教育活動を発信する。 ②「地域で活躍する向工生」を育むために、地域や企業との連携事業を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ感染対策を行いながらの活動となるため、ホームページを充実させ学校活動や魅力を積極的に中学校や地域への広報活動を行う。 ②学校活動が制限される中、自動ハンドベル演奏など企業との連携事業に参加し、自ら考える力やコミュニケーション能力、ものづくり教育を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページを利用して学校の行事や活動の紹介を通して学校の魅力を発信することができたか。結果として学校説明会参加者が増えたか。 ②地域の活動に生徒が積極的に参加協力し、自ら考える力やコミュニケーション能力、ものづくり教育を育むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①7月に実施した学校説明会では、感染対策として校内でリモート説明会を生徒主体で行った。生徒が説明を行うことで、中学生に本校生徒の活動を伝えることができた。また、HPに動画を掲載しPRを行った。 ②コロナ感染対策のため、地域連携事業が中止となる中、自動ハンドベル演奏を2駅で行い、生徒が主体的に参加し学校アピールに貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後もコロナ感染対策をとりながらの広報活動になるが、本校の活動を中学生に伝えられるようHPへの動画掲載の充実を図る。 ②企業との連携事業について、コロナ感染対策を踏まえながら生徒が積極的に活動に参加できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも可能な限りのことは実現できたものと思う。 ・コロナ感染の長期化は、課題解決に向けた諸活動に影響すると思う。感染対策に留意して取り組んでください。 ・コロナ禍にあって協働できることを探し続ける姿勢に感銘を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍で、説明会が中止や実施方法の制限がある中、リモート説明会を生徒主体で行うことができ、生徒が説明を行うことで、中学生に本校生徒の活動を伝えることができた。 ②地域連携事業についてもコロナ禍により中止となる事業が多かったが、自動ハンドベル演奏を2駅で行うことで、生徒が主体的に参加し学校アピールに貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ感染対策をとりながらの広報活動になるため、ホームページや動画を活用した学校紹介の発信や、リモート説明会などの検討も行っていきたい。 ②コロナ感染対策を踏まえながら行う企業との連携事業になるが、生徒が自主的・積極的に参加し、自ら考える力やコミュニケーション能力の向上に努める。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の情報機器の整備と防災教育を推し進め、安全安心な教育環境を構築する。 ・全ての職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①風水害を想定した防災マニュアルの策定と周知を行う。 ②事故防止研修を行い、事故不祥事の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①近接高校の情報等も取りながら、実用的なマニュアルを作成し、生徒・保護者に周知する。 ②私費会計担当者間の連絡を密にし、業務がスムーズに行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①マニュアルにのっとり職員研修・防災訓練が実施できたか。 ②県の私費会計規準にのっとり業務処理が行え、事故や不祥事は起きなかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①川崎市の指示・協力のもと河川増水時の生徒避難マニュアルを完成させた。 ①避難訓練時に、生徒たちに水害に関する動画を見せることで注意喚起ができた。 ②Teamsを使用し、会計への連絡はきちんと行うことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①水害時の近隣住民の避難について、川崎市と協定を結びマニュアルを策定したが、実際の避難対応時に不安が残っている。 ②今後も事故が起きないように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のほか、多摩川沿岸に立地している都合上、水害といつ対峙するかわからない。避難訓練等を継続的に実施されることを期待する。 ・台風水害を経験している近隣住民にとって、避難マニュアル策定は非常にありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①川崎市の指示・協力のもと、河川増水時の生徒避難マニュアルを完成させた。 ①避難訓練時に、水害や東日本大震災に関する動画を見せることで、注意喚起をすることができた。 ②事故は起きなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度も水害に関する避難訓練を実施する。 ②事故を起こさないよう、注意していく。